

## 川嶋昭二：外国産コンブ目植物の漂着記録 (4) チシマサツマタコンブ について

Shoji KAWASHIMA: Drifting records of alien species of the Laminariales (4).

*Laminaria subsimplex* MIYABE et NAGAI

### (4) *Laminaria subsimplex* MIYABE et NAGAI

チシマサツマタコンブ

コンブ属の中には、いわゆる *digitate species* (SETCHELL and GARDNER 1925) と呼ばれて葉が縦裂し掌状を呈する種類がある。このようなコンブは日本には釧路、根室地方に生育するゴヘイコンブ *Laminaria yezoensis* があるだけなので、日頃は単条のコンブだけを見なれている多くの日本人には、かなり珍しい種類と映るかも知れない。しかし、世界的に見るとコンブ属のタイプ種である *L. digitata* をはじめ多くの *digitate species* が北欧各地や北米大陸の東西両岸、そして極東海域にまで広く分布している。

ここに紹介する漂着海藻のチシマサツマタコンブ *L. subsimplex* もまた *digitate species* の1種で、宮部と永井 (MIYABE and NAGAI 1933) が千島列島北端のシュムシュ島とパラムシル島で採集した標本に基づいて新種としたものである。また、このコンブの分布につき彼らは北米ワシントン州を挙げているが、それ以外は今日まで北方海域のどこからも発見の記録がない。

漂着物は1980年9月上旬に北海道羅臼町在住の長川吾郎氏が知床半島東岸の同町合泊 (知床岬まで約18 km) の海岸に打ち上げられていたものを発見し、千島のヘイソク (ゴヘイコンブの俗称) ではないかと著者の所に持参されたものである。ちなみに同氏は1984年に死去されたが、生前は知床や千島のコンブに明るい篤漁家で、また貝類採集家としても知られ、その名はオサガワバイ (*Buccinum osagawai*) として記念されている。

素乾しのままの葉体を海水にもどしてから改めて乾燥標本 (Fig. 1) にして観察してみると、葉は破損し半分以上も失われているが確かに縦に深い裂け目があり、茎や分岐した根も残っているので、一見してチシマゴヘイコンブ *L. platymeris* かと思われた。しかし、なお良く各部を調べた結果、次のような特徴を知ることができた。

根は3-5回分岐し、その付け根で約3 mm と太く、最先端で急に細くなる。茎は長さ3.5 cm、太さ約

4 mm あるが、扁圧の程度は不明である。葉は基部が広くて円形をなし、全形は長楕円形か長卵形であったと思われるが、その左側は基部以外の大部分が欠け、右側の残った葉片は長さ77 cm、幅6 cm あり、基部まで切れこんでいる。この切れこみの縁は大部分が普通の縁辺のように滑らかで、漂流中にできた傷害ではなく、このコンブ本来の性質として流失前に生じた裂開の跡と見られる。また、この残っている葉片の幅と比較すると、失われた部分はおそらく2つくらいの葉片に分かれていたように思われる。葉の厚さは中央部で約1.1 mm、基部で1.5 mm あり、質は革質で堅く、色は暗赤褐色を呈する。粘液腔道は、茎では小さ

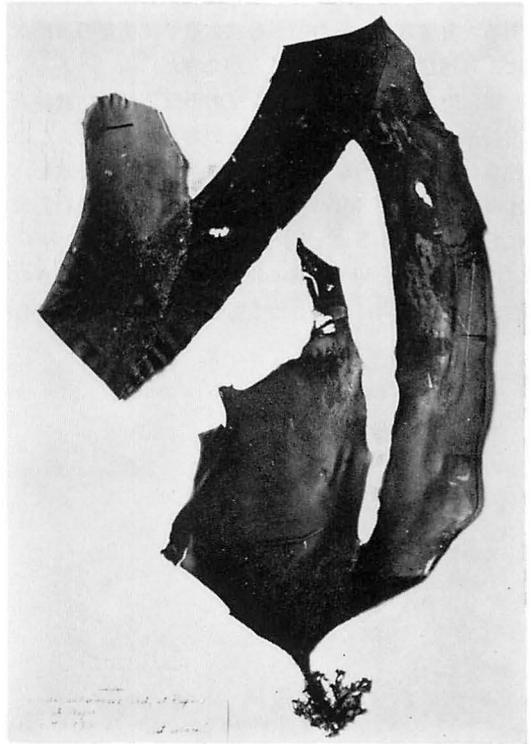


Fig. 1. *Laminaria subsimplex* MIYABE et NAGAI, cast ashore at Aidomari, Rausu (羅臼町合泊), Hokkaido. Early in September, 1980. Collected by Gorô OSAGAWA. (84 cm in length)

い円形または楕円形で表層直下にやや密に並び、葉では非常に小さい円形で外皮層中に1列に散在する。子囊斑は形成されていない。

さて、宮部と永井 (MIYABE and NAGAI 1932, 1933) が千島列島から報告した digitate species は5種類あるが、そのうち根が盤状のゴヘイコンブを除くチシマゴヘイコンブ、クマデコンブ *L. dentigera*, ホソバチャセンコンブ *L. taeniata* およびチシマサツマタコンブの4種はいずれも分岐した根をもち、外観も互いに似て区別が難しく、分類学的位置についてしばしば論議の対象にされてきた (KAIN 1979)。しかし、MIYABE and NAGAI (1933), SETCHELL and GARDNER (1925) および KJELLMAN (1889) の記載や図をよく検討すると、前2種は茎が比較的長く、葉は重複して多くの細い裂片に分かれ、幅広い掌状になるのに対し、後2種は茎が短か目で、葉の裂片は少なく、全形も細長になる傾向がある。また、これらの粘液腔道は葉においては4種とも小さな円形でほとんど区別し難いが、茎のそれはチシマサツマタコンブだけが小さな円形または楕円形であるのに対し、他3種はいずれも非常に大きい長楕円形または紡錘形であり、その違いは一目瞭然である。著者はこれらの特徴を北大農学部所蔵の各標本により追試し、確認することができた。

羅臼町合泊に漂着したコンブの外部形態と粘液腔道の特徴を上述した4種のそれと照合してみると、この標本は明らかにチシマサツマタコンブの特徴を示し、また全体として MIYABE and NAGAI (1933) の原記載にも良く一致する。

本種は今から50年以前に北千島の2島から報告されただけで、参考にすべき標本も少なく、形態変異や分

布域についての情報もない。この漂着海藻も、どこから、どんな経路で知床半島東岸に到達したのであろうかは想像の域を出ないが、今はシュムシュ島かパラムシル島から千島列島沿いに流れてきたと考えるほかはない。しかし、今まで知られている千島地方からの漂着海藻は、ほとんど釧路、根室地方の太平洋沿岸で発見されていることから考えると、今回の例は珍しいことであり、海洋学的にも興味を引く発見と思われる。

貴重な標本を発見し、提供して下さった故長川吾郎氏の功績は大きい。ここに故人に対し満腔の謝意を表す。また、標本調査を快くお許し下さった北海道大学農学部四方英四郎教授に厚くお礼申し上げます。

#### 引用文献

- KAIN, J.M. 1979. A view of the Genus *Laminaria*. *Oceanogr. Mar. Biol. Ann. Rev.*, **17**: 101-161.
- KJELLMAN, F.R. 1889. Om Beringhafvets Algflora. *Kongl. Sv. Vet.-Akad. Handl.*, **23**(8): 1-58.
- MIYABE, K. and NAGAI, M. 1932. On *Hedophyllum Bongardianum* (POST. et RUPR.) YENDO and five species of *Laminaria* from the North Kuriles. *Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc.*, **12**: 194-204.
- MIYABE, K. and NAGAI, M. 1933. Laminariaceae of the Kurile Islands. *Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc.*, **13**: 85-102.
- SETCHELL, W.A. and GARDNER, N.L. 1925. The Marine Algae of the Pacific coast of N. America, part III, Melanophyceae. *Univ. Calif. Publ., Bot.* **VIII**: 387-898.

(041 函館市日吉町4-29-15)